

(別紙3) 事後評価の対応方針

西日本高速道路株式会社では、事業評価監視委員会での意見をふまえ、対応方針を下記の通り決めました。

事業名	対応方針
京奈和自動車道 (京奈道路)	京奈道路の直接便益(時間短縮・経費節約・事故減少)を対象とした現時点の費用便益比は1を上回る。 さらに、木津川の迂回の解消による「地域の生活への貢献」、バス路線の開設に伴う「日常活動圏の中心都市へのアクセス向上」、大規模店舗の立地などの「小売業への貢献」等、様々な整備効果が得られている。 今後の学研都市の開発、第二名神等とのネットワーク形成により、さらなる整備効果が発現されるものと考えられるため、利用状況の変化等について注視していきたい。
安来道路	安来道路の直接便益(時間短縮・経費節約・事故減少)を対象とした現時点の費用便益比は1を上回る。 さらに、都市間バスの増便・新設などによる「バス路線の利便性の向上」、血液センターの搬送支援などの「救急医療活動への貢献」、国道9号通行止時の「代替路線の形成」など様々な整備効果が得られている。 今後の山陰道の更なる延伸供用に伴い、さらに効果が発現されるものと考えられるため、利用状況の変化等について注視していきたい。
山陽自動車道 (宇部 JCT ～下関 JCT)	山陽自動車道 宇部 JCT～下関 JCT 間の直接便益(時間短縮・経費節約・事故減少)を対象とした現時点の費用便益比は1を上回る。 さらに、都市間連絡バスの路線・便数増による「バス路線の利便性向上」、高速道路利用による「三次医療施設へのアクセス向上」、広域ネットワークの形成による「リダンダンシーの確保」など様々な整備効果が得られている。 今後、さらに有効活用されるよう、近傍観光施設との提携によるイベントの開催等を含めた利用促進について検討していきたい。
四国縦貫自動車道 (伊予～大洲)	四国縦貫自動車道 伊予 IC～大洲 IC 間の直接便益(時間短縮・経費節約・事故減少)を対象とした現時点の費用便益比は1を上回る。 さらに、「港湾へのアクセス向上」によるフェリー便数の増加、高速道路利用による「高次医療施設へのアクセス向上」、「観光地へのアクセス向上」による県外観光客の増など様々な整備効果が得られている。 今後の四国横断自動車道の延伸供用に伴い、さらに効果が発現されるものと考えられるため、利用状況の変化等について注視していきたい。
東九州自動車道 (西都 ～清武 JCT)	東九州自動車道 西都 IC～清武 JCT の直接便益(時間短縮・経費節約・事故減少)を対象とした現時点の費用便益比は1を上回る。 さらに、西都名産のマンゴー出荷での空港への搬送ルートに高速道路が追加され「農林水産品の流通の利便性向上」、空港連絡バスの新設による「空港アクセスの向上」、プロ野球の春季キャンプ地周遊バスの新設による「観光地へのアクセス向上」など様々な整備効果が得られている。 一方で、ネットワークが未成熟なため、十分な機能が発揮できていない面もあるが、今後の東九州自動車道の延伸供用に伴って、主要都市や交通拠点が結ばれ、都市間高速としてさらに効果が発現されるものと考えられるため、利用状況の変化等について注視していきたい。